

まちだ未来の会 第5回学習会

シンポジウム 「公共施設再編計画」の根っこを考える

こんな町田に暮らしたい！

—市民が創る公共とは—

日時：2017年9月30日 1:30~4:30

場所：町田市民文学館 2F大会議室

参加者：42名



1. あいさつ (菌田)

今、町田市の未来と公共を 市が独占しています。私たちの考える未来、ひとりひとりが参画する公共を、あらためて考えていきましょう。

2. 基調講演 「公共とは何か—開かれた対話空間をめざして—」

山口源治郎氏 (東京学芸大学)

地域に関わる図書館学を研究し、学生に講義していますが、今回公共性を考えて話すということで、悩みました。先日、国連総会で一国の首相が、「必要なのは対話ではなく圧力だ。」と述べました。暉峻 淑子(てるおか いつこ)氏は、著書「対話する社会」で、「戦争・暴力の反対語は、平和ではなく対話です」と述べています。新しい公共の在り方はこれだと思います。

今の社会空間は、大きく変貌しており、学生のなかでも、過剰に推し量る人間関係と、逆に無縁化する両極が見られます。ポスト真実の時代とも言われるように、トップが都合のいいことしか聞かない状況、攻撃による歪んだ言論空間があり、図書館の指定管理や民間委託の問題に反対しようにも、決まったことと聞く耳を持たない状況が見られます。一昨年、武雄市のツタヤ問題が全国的に注目されていますが、市長は「市民的な価値を実現した」と言いながら、実際は、企業価値を実現してしまっています。(館内図参照) 正面玄関そばの1番いい場所にツタヤの販売ゾーンがあり、ほか営利ゾーンが建物の半分を占めており、税金で造ったものを市場化しています。多摩地区でも、立川市の指定管理が進められ、分析すると、一館あたりの委託料が年々上がっている。平22年度2300万円、27年度3379万円とじわりじわりとあがっていることがわかり、大手の指定管理会社が独占、市は言い値で払っていることは、東久留米市でも同様です。

対話的空間＝市民的公共性の模索

齋藤純一著「公共性」に書かれた対話的空間とは、

- ・開かれた言論・思想(だれもが参加、表現できる)
- ・多様性・複数性



- ・応答性（聞いてもらえる空間）
 - ・自治性（みんなで決める）
 - ・小規模性と共同性（ちいさな対話集団がたくさん存在し、それらが共同する関係）
- コモンス（社会的共通資本）としての地域の再生

宇沢弘文「社会的共通資本」

ー地域に住むすべての人々が、豊かな経済を営み、優れた文化を展開し、人間的に魅了ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にする社会装置であり、利潤追求の対象として市場的な条件によって左右されてはならない。ー

日本は、“入会地”において、一定の地域の人が管理し、わかちあってきた歴史があります。

「財政難」は、そのまま受け取っていいのか、一方でどれだけの膨大な浪費がおこなわれているのか、見ていく必要があります。破たんする前の夕張市を訪れた時がありますが、国が金を貸してくれるからと、いくつも箱モノを作っていました。

財政難と脅され、我慢しなければいけないんだ！ということはなく、税の負担と配分と市民的合意形成をするべく、対話空間の創出が大切です。

ー休憩ー 講演への質問カードが多数よせられました。

3. パネルディスカッション

パネラー自己紹介

清瀬壮一さん 建築家、日曜の会。町づくり市民団体代表。

玉川学園コミュニティーセンター建て替え問題に取り組む。

齋藤功さん 町田ヒューマンネットワーク副理事長。（1989年全国で3番目に作られ、初代理事長は、山中恒氏）ヘルパーステーションマイライフ所長。190人にヘルパーを派遣している。

陶山慎治さん 社会福祉法人悠々会設立。鶴川地区協議会事務局長。

藺田碩哉さん 日本余暇学会会長。町田市レクリエーション連盟代表。

まちだ未来の会代表。

5か年計画とのかかわりについて（敬称略）

清瀬 コミュニティーセンターの建て替えも計画に入っているが、グランドデザインを、いろんなジャンルの人たちを含めて策定委員会をつくるべきだった。市民部総務課は街づくりの部署との繋がりがなく、町づくりのビジョンがない。

齋藤 会のプログラムや講演会で、ことばらんどや、芹が谷会館、フォーラム、生涯学習センターなどを使っているが、部屋が取りにくい。集会施設を減らす

というが、よく調べて減らすことになったのか、利用者の意見を聞いているのか？

陶山 人材不足である。市民グループは、活動の拠点が見つからず、こまっており自宅を提供することも考えたが、町内会のOKをとるのが難しい。

藺田 市民生活に根ざした「公共施設再編計画」の策定を求める請願は、継続審議になった。市の計画は本当の意味で市民がかかわっていないし、ビジョンがない。限られた資源をどう効率的に使うか？公共空間として、公園がある。アメリカでは、Parks & Recreationとして管理運営されているが、日本では、公園とレクリエーションは違う所轄になり、繋がっていない。

多摩市は、公園がたくさんあり、管理を住民にゆだねるようになった。

図書館は、憩の公園でもある。みんなで守っていくよう、人も知恵も出しあいましょう。

福祉、受託事業、NPOなどでは、どんな問題があるでしょうか？

斎藤 地域障がい者支援センターが5か所に出来、申請時、いちいち窓口が福祉課に問い合わせして時間がかかった。最近だいぶスムーズになってきたが、それぞれ特長のある民間の母体が地域でわけられてしまい、生かせなくなってしまった。作って丸投げは困る。

陶山 年800万円の助成を受け、居住市民モデル事業を行っている。居住や、元気高齢者の講習をしているが、2年、3年で補助金は打ち切れ、自力でやりなさいというのは、厳しい。段階的にしてほしい。市民のジャッジが必要。

会場からの質問

鶴川在住：義母（82歳）は、デイサービスに通っていたが、介護認定が変わり、要支援1になって対象からはずれて通えなくなってしまい、行くところがなくなって生きがいをなくしてしまった。困っている。

会場の方：市が本当にお金がないのかを考える必要がある。港区の一人あたりの所得は町田の3倍という。ウエルフェアを増やす戦略的政策を望む。

(司会)お金は使いみちの問題もあり、サッカー関連や美術工芸館構想などで多額の支出が見込まれていますが、スポーツ推進の立場から発言をお願いします。

スポーツ推進委員会の方：2020年パラリン・オリンピックを通過点として、スポーツ活動を楽しむ計画を進行中。行政とタイアップして対話しながら進めていきたい。

レクリエーションの立場から（藺田）：トップスポーツを楽しむ人の数は少ない。たいがいは健康づくり、福祉の世界では元気を取り戻すことにつながっている。

ポッチャなども始まっている。ゼルビアだけを考えず、(お金をかけすぎである) 大きなデザインを行政の横のつながりで作っていくには、市民の力しかない。

“町カフェ”は、5回目をやり、変質してきた。12月のはじめ、市役所の一隅でNPO団体連合会が始めたが、市が研修会など行い、行政主導になって、怒ってやめてしまう団体はかなり出た。イベントはつづいているが、参加費をとるよう言って来たり、市の役割をはき違えている。市民のよこのつながりが必要である。

(司会)若い参加者からも意見を。

イラストレーターの本田です。聞きたいことを知ることができた。行政の中にも話せる人もいるので、行政と民間が対話していいところを取り合って町づくりをしていけたらと思う。

(司会)パネラーから一言、市とのかかわりの問題など。

清瀬 街づくり条例に基づく団体として、玉川学園地区まちづくりの会は、1998年まちづくりプランを出しているが、市民部は知らない。横のつながりがない。やりとりをじっくりやっていく。

斎藤 うまくいくと市側はすぐ切ってしまう。連携を大切に、顔の見える関係で、時間をじっくりかけて行えたらいい。

陶山 この運営は地域でやりますからと言って、行政を止める。

生涯学習センターを守るには、市民講座をやる。

図書館の存続を求める署名では、自治会に未加入の人も、これにはかかわってもいいかなという姿勢をしめした。

山口 小布施は地域づくりが盛んといわれているが、実は農業部門が大きい。いろんなことで町は生きている。つないでいく役割を大事にしたい。

藺田 3つある。①顔の見える関係を。議員も。市の職員とも親しくなろう。

②若い人ともつながる。シバヒロなどで、音楽イベントをしたい。

③市の再編計画の市民の対案を作りたい。

最後に (守谷)

公共について考える時、2002年に町田市の市民講座が1年かけて制作した

「あたらしい公共をさぐる市民シンポジウム」「町田市民自治条例」を見つけた。

地方自治体も政府だという地方自治法制定後、全国で363自治体で自治市民条例がある。町田市は、市長が変わってから有耶無耶になったという。この条例の39条には市民投票は5分の4の賛成で発議される、という記述もある。全文を読みます。

一たんに公ではなく、だれにでも開かれたパブリックとして

市民のあたらしいしくみを。－

< 散会 >

基調講演への質問と返答(パネルディスカッションのはじめと終わりに回答された)

・公共性は人権と密接に関係していると思うが。

A・まさにそのとおり。図書館は知る権利を保障するものだ。

・立川の指定管理料が上がっていることについてもうすこしききたい。

A・指定管理は費用対効果、サービス向上、企画に期待があったが、開館時間がのびたこと、一時入館人数がふえても、逆に1日あたりの利用度が下がっている。多摩地区はレベルが高いので、指定管理でレベルをあげるのは難しい。

・社会空間、行政空間の関連性について、アメリカの影響があるか？

A・80年代冷戦が終わり、グローバル化、IT化の影響が大きい。

・市場社会で対話は可能か？

A・市場化のひずみに歯止めがかからないことに危惧している。

・図書館を中高年の居場所、こどもの居場所にするには？

A・NPOやボランティアなど、企画に民間の活力を導入する。そのとき、それぞれの性格、領域を検証して。

・多様性ある図書館はあるか？

A・近場だと、日野市で、発見隊の活動がある。図書館を根城に地域の発見探索をしている。

文学館への質問

・存廃はどうなっているのか？

A・(守谷) 行政経営改革プラン48に載っていることによると、「17~18年度に検討する。存続になっても、運営方法を検討する」となっている。ひなた村、ひかり療育園も同様。

記録 (庄司)